記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

スクールソーシャルワーカーだより ε

イプシロン

わたしが
戦争に
反対するわけ

ウクライナだけじゃない

ＳＳＷは、健全な学校生活が送れず困っている子の力になるのが仕事です。しかし、子どもなりに考え、つらい思いをしない工夫をして、困っていないと言う子への支援もあります。おとながその工夫を認めず「困った子だ」と思う子への支援もあります。

ＳＳＷは、先々、その子が困るかも知れないと考えれば、出来るだけ中立の立場から、子どものために活動します。

☆　ところで…

ＳＳＷとしてウクライナ侵攻を、校内トラブルに見なして考えて見ます。

ＥＵ先生はロシア君に、暴力はダメ！と注意します。「ぼくの弟をいじめたから**仕返し**している。ウクライナのいじめは認めて、ぼくにダメと言うのはおかしい！」と反発、国連先生たちの「注意」や、「多数決」で決めたきまりも無視。先生たちはウクライナ君を応援するけど、誰もロシア君を叩きません。

ロシア君と、仲良しのベラルーシ君はウクライナ君への攻撃を続けます。その様子を見た近所のジョージア君たちは、「次は自分たちの番だ」と恐れて、ＥＵ先生に助けを求め始めました。

ロシア君のおかあさんが親戚の中国叔母さんに、「ＥＵ先生のひいき」だと言うと、叔母さんも「欧米先生たちはいつも上から目線で説教する」とロシア母さんに賛成します。

ロシア、中国に世話になっているおとなしい国々たちは、黙っている事で応援するのです。

★　さらに言うと…

戦争に巻き込まれた国では、「指導者」だけが権力を持ち、指導者を批判する人は排除されます。そうしないと、戦争が続けられないからです。

指導者より、『独裁者』がふさわしい呼び方です。

戦争への坂道を下り始めると、おとなの中にも必ず「決まった事なら」と、『独裁者』の言いなりになる人が増えます。「おかしい」と批判すると、罰せられるからです。

日頃から暴力で問題解決する子は、平和なクラスの中では少人数でも、巨大な暴力・人権無視であるいじめや戦争になると勢いづきます。

学校や地域で、暴力を肯定する「虎の皮をかぶるキツネ」たちが静かな多数派を攻撃し、自分たちの力を見せつけるため、さらに弱い者いじめをして恐怖を植え付け、影響力を拡大するのです。

ついに誰も、何も言わなくなり、戦争は続きます。

☆★

いじめも、目を付けた子と、その子に優しくする子が対象になります。いじめられたくない子は、見ぬふりをします。同じ仕組みなのです。

そしてこの時、いじめの対象になりやすいのは、平和な今、変り者に見える子や、考えを上手に言えない子、不登校傾向の子ども、つまり困っている子なのです。

戦争という巨大な暴力の中では、社会全体で命に関わるほどひどい差別やいじめが起きます。

ＳＳＷであるわたしは、戦争を知らない子どもたちのために、平和な今だからこそ、誰もが、お互いを信頼し合い、安心して自分の考えを口に出来る学校でなければならないと考えるのです。

そのためにいじめや暴力、あるいは子どもの力を信じず、育てず、自分の正義で支配しようとする大人から子どもを守るために働きたいと思います。